

区 分	専門科目－教職科目 教職に関する科目	担当教員	間田 泰弘			
授業科目	技術科教育法 I					
英 訳	Method of Technology Education I					
配当年次	2 年次 後 期	必選別	中学校技術教免必修	単位数	2 単位	
【授業の概要】 社会及び学校教育において児童生徒を取り巻く技術的環境の変化を知り、科学技術教育の中の技術科教育の意義と役割について討議をとおして事例を挙げながら理解を深める。それを基にした上で現行の中学校学習指導要領（技術・家庭科）の趣旨について検討する。						
【授業の目的】 技術教育の意義と役割について理解を深め、技術科教師としての指導理念や心構えの確立をめざす。						
【到達目標】 ・科学と技術、および科学技術の意味を理解する。 ・技術科教育の意義と背景を理解する。 ・学習指導要領の役割を理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 予習：技術に係わる情報を主体的に収集する。 復習：授業のまとめを毎時間作成して提出する。						
【授業計画】 第 1 回：オリエンテーション－技術と技術教育－ 第 2 回：児童生徒を取り巻く環境の変化と、子どもの技術的素養 第 3 回：自然科学教育と技術教育 第 4 回：技術論と、技術教育の目的と意義 第 5 回：技術の進歩とその背景 第 6 回：技術教育の歴史的変遷 第 7 回：普通教育として技術・家庭科が設置された趣旨 第 8 回：技術教育が担う役割 (1) 継続して計画的に学習を進める自律心 第 9 回：技術教育が担う役割 (2) 技術に関わる工夫・創造と、巧緻性 第 10 回：技術教育が担う役割 (3) ものづくりをとおした職業観・勤労観 第 11 回：技術教育が担う役割 (4) 生産・消費・廃棄につながる技術の活用と倫理観 第 12 回：技術教育が担う役割 (5) 技術に関わる危険・安全への理解 第 13 回：技術教育が担う役割 (6) 知識・技能・理解をとおした技術の活用と評価 第 14 回：中学校における技術科教育の目的 第 15 回：中学校学習指導要領（技術・家庭）の趣旨と、今期のまとめ						
【教科書】 ・「中学校学習指導要領」 ・配付する資料 ・「中学校学習指導要領解説－技術・家庭編－（文部科学省著 教育図書(株)）」						
【参考書】 ・「新技術科教育総論（日本産業技術教育学会編）」 ・その他、技術教育に関わる図書						
【成績評価基準】 毎授業時間後の小レポート(50%)、平素の意欲(25%)、期末レポート(25%)などで総合的に評価する。						
【メッセージ】						

区 分	専門科目－教職科目 教職に関する科目	担当教員	間田 泰弘			
授業科目	技術科教育法Ⅱ					
英 訳	Method of Technology Education Ⅱ					
配当年次	3 年次 後 期	必選別	中学校技術教免必修	単位数	2 単位	
【授業の概要】 技術科教育の目標を理解した上で、学習指導要領に定められている4つの内容の概要を知り、それらを取り扱う場合の授業の骨子を構想する。その過程では、中学校に備えられている設備、機器を知り、それらの安全な管理と使用にあたっての指導法を理解する。						
【授業の目的】 技術科教育の目標について認識し、つづいて技術分野の目標と内容を知り、個々の内容の概要及び学校の設備・機器等を把握する。さらに、安全管理を視野に入れた実際の授業を想定した指導方法を構想する。						
【到達目標】 ・技術科教育の目標と内容を理解する。 ・内容の概要及び学校の設備・機器等を把握し、安全管理を視野に入れた実際の授業を想定した指導方法を構想することができる。						
【準備学習(予習・復習)】 予習：技術に係わる情報を主体的に収集すること。 復習：授業のまとめを毎時間作成して提出すること。						
【授業計画】 第 1 回：オリエンテーション－技術科教育の概要－ 第 2 回：技術科における不易・流行の教育 第 3 回：技術科教育における「ものづくり」の役割 第 4 回：現行の学習指導要領が目指す技術科教育についての検討 第 5 回：同 内容についての検討 1) 技術分野における工夫・創造 第 6 回：同 内容についての検討 2) 技術分野の学習をとおした生きる力 第 7 回：同 内容についての検討 3) 材料と加工に関する技術 第 8 回：同 内容についての検討 4) エネルギー変換に関する技術 第 9 回：同 内容についての検討 5) 情報に関する技術 第 10 回：同 内容についての検討 6) 生物育成に関する技術 第 11 回：技術分野の施設・設備・教育機器・工具 第 12 回：技術分野の安全・管理 第 13 回：技術分野の指導方の研究 (1) 安全・管理を主に意図した授業例の構想 第 14 回：技術分野の指導法の研究 (2) 取り扱う内容を主に意図した授業例の構想 第 15 回：技術分野の指導案の基本と、今期のまとめ						
【教科書】 ・「中学校学習指導要領」 ・配付する資料 ・「中学校学習指導要領解説－技術・家庭編－（文部科学省著 教育図書(株)）」						
【参考書】 ・「新技術科教育総論（日本産業技術教育学会編）」 ・「技術・家庭学習指導書－技術分野－（開隆堂出版(株)）」						
【成績評価基準】 毎授業時間後の小レポート(50%)、平素の意欲(25%)、期末レポート(25%)などで総合的に評価する。						
【メッセージ】						

区 分	専門科目－教職科目 教職に関する科目	担当教員	間田 泰弘			
授業科目	技術科教育法Ⅲ					
英 訳	Method of Technology Education III					
配当年次	4 年次 前期	必選別	中学校技術教免必修	単位数	2 単位	
【授業の概要】 技術分野が扱う内容の範囲は広く、多様な内容についての知識・技能を習得させるとともに、それらを活用する実践的な態度を習得させることが求められる。そこで、指導に当たっての基本的に必要な指導法を修得し、それが模擬授業で実践できる力を修得する。						
【授業の目的】 技術分野の多様な内容についての知識・技能を理解し、それらを活用する実践的な態度の習得を目指す。そのための基本的に必要な指導法を修得し、それが模擬授業で実践できる力を修得する。						
【到達目標】 ・技術分野の指導上の留意点を理解する。 ・技術分野の学習指導案が書ける。 ・他人の前で目指す授業についての説明ができる。						
【準備学習(予習・復習)】 予習：技術に係わる情報を主体的に収集すること。 復習：授業のまとめを毎時間作成して提出すること。						
【授業計画】 第 1 回：オリエンテーション－技術科教育実践のための要点－ 第 2 回：技術分野の内容（教材・学習材・教科書等） 第 3 回：技術分野の教材・学習材の工夫（1）習得させる目的 第 4 回：技術分野の教材・学習材の工夫（2）生徒の関心・意欲 第 5 回：技術分野の教材・学習材の工夫（3）学習後の活用 第 6 回：技術分野の教材開発とその意義 第 7 回：技術分野の指導方法の要点と指導上の留意点 第 8 回：技術分野の学習評価の目的と方法 第 9 回：技術分野の評価の観点と評価規準 第 10 回：技術分野の学習指導案の構成（1）趣旨 第 11 回：学習指導案の構成（2）展開・ワークシート 第 12 回：学習指導案の構成（3）まとめ・学習結果の活用 第 13 回：技術分野の表現力の育成と活用を目指す工夫（「目標・まとめ・活用」のためのカード） 第 14 回：技術分野の表現力の育成を目指した指導案と模擬授業 第 15 回：技術分野の模擬授業をとおした「指導と評価」と、今期のまとめ						
【教科書】 ・「中学校学習指導要領」 ・配付する資料 ・「中学校学習指導要領解説－技術・家庭編－（文部科学省著 教育図書(株)）」						
【参考書】 ・「新技術科教育総論（日本産業技術教育学会編）」 ・「技術・家庭学習指導書－技術分野－（開隆堂出版(株)）」 ・その他、技術教育に関わる図書						
【成績評価基準】 毎授業時間後の小レポート(50%)、平素の意欲(25%)、期末レポート(25%)などで総合的に評価する。						
【メッセージ】						

区 分	専門科目－教職科目 教職に関する科目	担当教員	間田 泰弘		
授業科目	技術科教育法Ⅳ				
英 訳	Teaching of Technology Ⅳ				
配当年次	4 年次 後 期	必選別	中学校技術教免必修	単位数	2 単位
【授業の概要】 技術に対する基礎的指導力を修得していることを前提に、さらにその指導力の向上を図るため、技術科教育の基本となる具体の課題の教材研究、及び指導法の工夫を行って指導上の基盤を強化しつつ、指導者としての研究・研修の意義を理解する。					
【授業の目的】 幅広く技術教育について考え、技術科の教員としての指導方法・指導内容について、教材研究と指導法の工夫が常に必要であることを理解し、指導力向上のための態度を身につける。					
【到達目標】 ・技術科教育の基本となる具体の課題の教材研究をし、内容を理解する。 ・技術リテラシーについて課題を設定し考えることができる。 ・他者に自分が考えた指導目的や内容を説明できる。					
【準備学習(予習・復習)】 予習：技術に係わる情報を主体的に収集すること。 復習：授業のまとめを毎時間作成して提出すること。					
【授業計画】 第 1 回：オリエンテーション－技術科教育の指導力向上を目指す教材研究と指導法の工夫－ 第 2 回：技術に関わる指導者に求められる資質と研修の意義 第 3 回：教材研究 (1) 科学技術がもたらす正と負と未来 第 4 回：教材研究 (2) 技術にかかわる製造者のモラル 第 8 回：教材研究 (3) 技術にかかわる使用者のモラル 第 6 回：教材研究 (4) 技術的素養としての知識・理解と授業への活用方法 第 7 回：教材研究 (5) 技術的素養としての技能・技術と授業への活用方法 第 8 回：指導法の工夫 (1) 環境保全に活かすための実践的態度 第 9 回：指導法の工夫 (2) 技術分野のガイダンス 第 10 回：指導法の工夫 (3) 材料と加工に関する技術 第 11 回：指導法の工夫 (4) 技術分野と理科におけるエネルギーの取り扱い方 第 12 回：指導法の工夫 (5) 技術分野の情報に関する技術 第 13 回：指導法の工夫 (6) 技術分野の生物育成に関する技術 第 14 回：家庭や地域で活かされる技術を意図した学習指導案の事例作成 第 15 回：家庭や地域で活かされる技術を意図した模擬授業と、今期のまとめ					
【教科書】 ・「中学校学習指導要領」 ・配付する資料 ・「中学校学習指導要領解説－技術・家庭編－（文部科学省著 教育図書(株)）」					
【参考書】 ・「新技術科教育総論（日本産業技術教育学会編）」 ・技術リテラシーに関わる図書					
【成績評価基準】 毎授業時間後の小レポート(50%)、平素の意欲(25%)、期末レポート(25%)などで総合的に評価する。					
【メッセージ】					

区 分	専門科目－教職科目 教職に関する科目	担当教員	間田 泰弘			
授業科目	工業科教育法 I					
英 訳	Method of Industrial Education I					
配当年次	3 年次 前期	必選別	高校工業教免必修	単位数	2 単位	
【授業の概要】 工業科の学習指導に必要となる指導方法の修得を目的として、工業高校の目的、役割、教員に求められる資質、教師としての観点などについて理解する。						
【授業の目的】 我が国の産業の歴史的背景をもとに工業の歴史を知り、工業科教育の意義、および工業科の学習指導に必要となる指導方法の修得を目指す。						
【到達目標】 工業の歴史を認識した上で、工業科教育の意義、今後の工業高校の役割を理解し、工業高校教員に求められる資質を形成する。						
【準備学習(予習・復習)】 予習：工業に係わる情報を主体的に収集すること。 復習：授業のまとめを毎時間作成して提出すること。						
【授業計画】 第 1 回：専門高校の役割 第 2 回：工業教育の意義 第 3 回：工業教育史 (1) 江戸時代までの工業 第 4 回：工業教育史 (2) 明治時代の工業 第 5 回：工業教育史 (3) 戦前の工業 第 6 回：工業教育史 (4) 戦後の工業 第 7 回：我が国の工業の特徴 第 8 回：我が国の工業の現状と課題 第 9 回：工業教育の目標 第 10 回：技術教育の中の工業教育の役割 第 11 回：工業科教育と義務教育・高等教育との連携 第 12 回：環境とエネルギー問題を配慮した工業科教育と産業との連携 第 13 回：工業科教育の教育課程 (1) 高等学校学習指導要領の役割 第 14 回：工業科教育の教育課程 (2) 工業高校の課題と今後の取り組み 第 15 回：まとめ						
【教科書】 ・「高等学校学習指導要領」 ・「高等学校学習指導要領解説－工業編－（文部科学省著 実教出版(株)）」						
【参考書】 ・「日本工業教育史（小林一也著 実教出版(株)）」 ・「中学校学習指導要領」						
【成績評価基準】 毎授業時間後の小レポート(50%)、平素の意欲(25%)、期末レポート(25%)などで総合的に評価する。						
【メッセージ】						

区 分	専門科目－教職科目 教職に関する科目	担当教員	間田 泰弘			
授業科目	工業科教育法Ⅱ					
英 訳	Method of Industrial Education Ⅱ					
配当年次	3 年次 後 期	必選別	高校工業教免必修	単位数	2 単位	
【授業の概要】 高等学校工業科教育にとって教職科目と教科専門科目の内容にまたがる実践力形成のための授業であることから、今日の工業科教育における課題を認識し、工業科教育の具体的指導案作成等を行う。						
【授業の目的】 工業の歴史を認識した上で、工業科教育の意義、今後の工業高校の役割を理解し、工業高校教員に求められる資質を形成する。						
【到達目標】 ・工業に係わる職業観・勤労観について理解する。 ・工業科の現状と課題を認識し、社会との関連を理解する。 ・工業科教育に必要な学習内容を把握し、指導法に生かすことができる。						
【準備学習(予習・復習)】 予習：工業に係わる情報を主体的に収集すること。 復習：授業のまとめを毎時間作成して提出すること。						
【授業計画】 第 1 回：工業科教育の現状 (1) 進路と学習 第 2 回：工業科教育の現状 (2) 職業観・勤労観とは 第 3 回：工業科教育の指導 (1) 学習指導要領総説の意図 第 4 回：工業科教育の指導 (2) 工業科の概要 第 5 回：工業科教育の指導 (3) 工業科教育の基礎 第 6 回：工業科教育の内容 (4) 各自が専攻している内容の検討 第 7 回：工業科教育における学習環境 第 8 回：工業科教育における設備・機器の調査 第 9 回：工業科教育における学習指導計画 (1) 高等学校学習指導要領における工業科の目標 第 10 回：工業科教育における学習指導計画 (2) 危機管理と安全 第 11 回：工業科教育における学習指導 (1) 指導案の意義と役割 第 12 回：工業科教育における学習指導 (2) 指導案に必要な要点 第 13 回：工業科教育における学習指導 (3) 環境とエネルギーをテーマとした指導案例 第 14 回：工業科教育における学習指導 (4) 評価規準 第 15 回：模擬授業とまとめ						
【教科書】 ・「高等学校学習指導要領」 ・「高等学校学習指導要領解説－工業編－（文部科学省著 実教出版(株)）」						
【参考書】 ・「日本工業教育史（小林一也著 実教出版(株)）」 ・高等学校工業の教科書（科目や出版社は問わない）						
【成績評価基準】 毎授業時間後の小レポート(50%)、平素の意欲(25%)、期末レポート(25%)などで総合的に評価する。						
【メッセージ】						